

エゾマイマイ

木道用に樹皮を剥がしてある丸太を寸法に合わせて切断していましたが、黒っぽくて大きなカタツムリが張り付いていました。エゾマイマイでした。作業の邪魔になるので、板の上に移して撮影。2016年7月19日10時16分のことでした。



夜半からの雨で澄川の森の樹々の濡れた幹にあちらこちらでカタツムリが張り付いていま

た。カタツムリは陸に棲む巻貝で、800種類も和名がつけられていると、カタツムリハンドブック(文一総合出版)に記載されています。澄川森林にはどれほどの種類が棲むのかこれからおいおい出会いの中で調べたいと思う次第であります。

和名は〇〇マイマイのようにマイマイがついているものが大多数です。天敵は昆虫たち中でもマイマイカブがそのものずばりです。それに肉食性の昆虫のホタルの仲間たちがあげられますが、逃げ足がないので天敵に遭遇したら即アウトでしょうから、切なくなります。せめてもの防御のために蓋を持つカタツムリが日本に130種類もいるとのこと。

エゾと北海道の旧名が頭につけられているように分布は東北地方の高山帯にも生息するとのことですが、主には北海道で、かつ殻径39ミリ、殻高31ミリと大型なので、地味な装いですが目立ちます。

カタツムリたちは雌雄同体ですが、生殖に際しては他の個体と交尾をいたしお互いの遺伝子を交換します。相手に恵まれずに単独産卵も可能なのですが、それはやむを得ない場合にのみ神に許されることであります。

貝殻として死後に殻は永く残りますので、殻をみつけたら無視しないで調べれば種を同定することもできるので、分布の資料になります。

何を食べているのかについては、未知の部分が多いと思われま



植物質ばかりでなく、動物質も食べる記録もありますので、その解明には専門家の努力に期待いたしましょう。

この日、朝からの雨模様にもかかわらず参加者12名、澄川南小学校対応の4名を除く残り全員で最上流の木道の改修工事の杭打ちをやりました。高齢者集団の中でも力自慢の面々が入り替わり立ち代わり掛矢をふるいまして20本余の杭打ちを完了しました。